



感謝と喜びが溢れる生き方

戦後四十年型



親神様への感謝の心で行うことは すべてひのきしん (2月18日女子青年初例会より)

真朋

発行所
天理教芦津大教会
〒546-0003
大阪市東住吉区
今川8丁目6番32号
電話 06 (6702) 1980
FAX 06 (6700) 1854
Eメール shinmei@ashitsu.or.jp
印刷所 天理時報社

やむほどつらいことハない
わしもこれからひのきしん
よくをわすれてひのきしん
これがだい、ちこえとなる

三下り目 八ッ
十一下り目 四ッ

親神様の御守護を頂戴し、毎日元気に身体を使わせていただける喜び。今日一日、結構に過ごすことができた喜び。その喜びと親神様への感謝の心から生まれる行動は、すべてひのきしんです。

ひのきしんとは欲を忘れ、出すことに徹した行動。親神様から頂戴している御守護を実感し、それに報いるため、自分にできる精いっぱいのことをしようと真実を出す行いです。ひのきしんを通して、常に真実を出し切ることを心掛けている人は、「自分はこれだけしかしていないのに、こんなに頂いてありがたい、もつたない」と、与えを大きく受け取る、喜び上手になることができます。

またひのきしんは、見返りを求めず、人に尽くす喜びの行いです。人のために尽くして自らが喜び、周囲の人にも喜んでいただき、さらには親神様・教祖がお喜びくださる。こうして喜びが何重にもなって広がっていくひのきしんは、陽気ぐらしへと向かう大きな力となるでしょう。ひのきしんこそ、私たちお道を通る人の生き方そのもの。感謝の心でひのきしんに励み、喜びが溢れる毎を送りましょう。

正面方加

教祖年祭へ向け
て各々が目標を定
め、その実現へ向
けての理づくりに
日々励んでいる。
思い描く目標に少
しでも近づけるよ

う、コツコツと理づくりを続けることが大切である。

「継続は力なり」という言葉があるが、これには2つの意味がある。①「続けることで成果が得られる」②「諦めずに取り組む。それは自身の持つ能力の一つでもある」の2つである。

継続には時に困難が付きまとい「やめよう」という負の力との闘いでもあるが、続けることで必ず御守護を頂戴できると信じ、どんな中も諦めることなく勇み心で勤め切りたいと思う。

続いてあつてこそ、道と言う。続かん事は道とは言わん。言えようまい。

明治39年5月21日
先を楽しみに一歩一歩年祭へと向かいたい。
(洋)

《2月月次祭 挨拶》

道の子弟に信仰を引き継ぐ 努力を重ねよう

大教会長 井筒梅夫

皆様方には、時旬に相應しい信仰実践を心掛けて、日々お励みくださいまして、誠にご苦勞様です。今日はまだまだ寒さ厳しい中大教会へご参拝くださり、只今2月の月次祭を滞りなく、共に勇んで勤めさせていただきましたことは、大変ありがたい次第です。月次祭にあたり、一言ご挨拶をいたします。

年祭活動2年目もふた月が過ぎようとしています。教祖年祭の旬はたすけの旬、成人の旬と聞かせていただくように、お互いにようぼうとして、常からおたすけを心掛けることが肝心です。ようぼうの日頃の成人の足場は教会ですが、教会活動の中心となるのは「おたすけと丹精」だと思います。

この丹精には、子弟、子供に信仰を伝えていく縦の伝道が含まれているの言うまでもありません。これを強調すれば「おたすけと丹精、そして縦の伝道」ということになります。つまり、人をたすけて道を広げていくことと、人を育て導くことであって、教会活動の全てはここから派生し、またここに繋がる動きといっても過言ではありません。にをいがけ・おたすけは横への広がりであり、丹精は縦への繋ぎです。これをもって陽気ぐらし世界への歩みを進めていくのが、この天理教です。

その中の縦の伝道ですが、他系統に毎月の月次祭に80名からの

おつとめ奉仕者が集まり、その内の9割が初代会長様に繋がっている親族関係者だという教会があります。その教会が所属する大教会長さんに、このことについて尋ねたことがあります。それによると、その教会の会長さんは、ようぼうく、信者の子弟によく心を配り、旬々折々には声を掛け、おちばや大教会、また自教会で行う育成活動への参加を積極的に勧めるなど、細やかに丹精をしていると聞きました。もちろん、いきなりこうした姿になったのではなく、長い年月をかけて縦の伝道を継続してきたおかげで現在の教会の姿になったわけです。縦の伝道が行き届いたら、こんな賑やかな教会の御守護が頂けるのか、と感心をしているところですよ。

私も今年に入ってから、親族一同が大勢参拝している教会や、たくさんの子連れ参拝のある教会に巡教をしましたが、こうした教会はこれからの丹精次第で先々が太いに楽しみです。

3月は年度末で、切り替わりの時期を迎えます。大げさに言えば人生の節目の時です。ようぼうく、信者の子弟、また皆様方の子弟の中には、進級をしたり、進学をしたり、社会へ巣立つ若者もいると思います。こうした子弟一人ひとりに心を配って、声を掛けることも縦の伝道です。人生の先輩としてアドバイスできることもあるでしょうし、悩みを抱えていれば耳を傾けることもできるでしょう。お祝いや激励の言葉を掛けることもできます。人生の節目で聞かせてもらった一言が、その人をより良い運命に導くこともあり得ると思うのです。

こうしたことの一つ一つが縦の繋ぎになります。お互いにきめ細やかな丹精を心掛けたいものです。

また3月は、さまざまな育成活動があります。本部では学生生



徒修養会・大学の部、高校卒業生コース、春の学生おぢばがえりが開催されますし、大教会では少年会総会や、わかぎの集いを行います。また個々の教会でも育成活動を企画しているところもあると思います。こうした活動を大いに活用して、声を掛け、参加を促すことも縦の伝道の大切な一つです。

「諭達第四号」に、

教祖お一人から始まったこの道を、先人はひながたを心の頼りとして懸命に通じ、私たちへとつないで下さった。その信仰を受け継ぎ、親から子、子から孫へと引き継いでいく一歩一歩の積み重ねが、末代へと続く道となるのである。

と縦の伝道がいかに大切かということを示してくださっています。年祭活動となれば、にをいがけ・おたすけが強調されます。もちろんこれは時旬の大切な角目ですから、勇んでつとめさせていただきます。ただ、その上で縦の伝道も決して疎かに考えずに、末代かけてこの道を繋いでいくことが私たちの大切な役目であると自覚し

て、道の子弟に信仰を引き継いでいく努力を重ねていきたいと思っています。どうか皆様方のきめ細やかな、継続をしたご丹精をお願いいたします。今月の挨拶といたします。

今日は共に勇んで2月の月次祭を勤めさせていただきました。大変ご苦勞様でした。

(要約)

立教百八十七年 二月月次祭祭文

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に、天理教芦津大教会長井筒梅夫、慎んで申し上げます。

親神様には子供可愛い親心から、日夜絶え間なき御守護にお護り下さり、大難を小難、小難を無難へとお導き下さいます御慈愛の程は、誠に有り難く勿体ない限りでございます。私共は、日々御恩報じを思い念じて、時旬の道の勤めに勇み励ませて頂いておりますが、その中にも今日の吉日はおぢばよりお許しを頂きました尊き日柄でございますので、只今から役目にあずかる者一同、心を揃え、座りづとめ、てをどりを陽気に勤めて、二月の月次祭を執り行わせて頂きます。御前には春寒の折柄も厭わず参らせて頂きました芦津の道の子達が、日頃賜る御恵みに御礼を申し上げ、共にお歌を唱和して、人々のたすかりと世の治まりを一心に祈念する真実の状をも御覧下さいまして、親神様にもお勇み下され、世界に遍くたすけの理をお垂れ下さいますようお願い申し上げます。

私共をはじめ、芦津に繋がる教会長、ようぼくは、今日の大切な旬に一人ひとりがおたすけを常に心がけて、現在おたすけに努めている者はより勇んで真剣に取り組み、逡巡している者は一歩踏み出し、つとめでたすけを願い、機を逃さずおさづけを取り次いで、教祖年祭への歩みを着実に進めさせて頂く所存でございます。

何卒、時旬に尽くす一同の誠真実をお受け取り下さいまして、不思議自由の御守護のまに／＼、銘々は教祖の道具衆として存分に働かせて頂き、教会を足場にたすけ一条の道が広く伸び榮えて、世界中の人々の心が澄み亘り、一れつ互いにたすけ合う陽気ぐらしの世の状にお連れ通り下さいますよう、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

《2月月次祭 神殿講話》

一分の隙もない

いんねんの理詰めの世界

役員 瀧本眞二郎

教典勉強会

今月17日の婦人会芦津支部の例会から教典の勉強会が始まり、その担当をすることになりました。

教典の勉強会と言いましても、37年前の修養科一期講師以来の遠い昔のことで、他人様に教えられるような力ありませんが、一緒に勉強をさせていただくつもりでお受けしたようなことです。

昭和23年、二代真柱様は当時の教典講習会で、今われわれが手にできる現教典を復元教典と規定されています。つまり、復元教典ということとは、元があるということ

です。その元なる教典とは明治教典です。明治36年、当時教派神道、いわゆる神道の中の天理教という立

場であつたのを、一派独立する上から、神社本庁や、国の所轄官庁に届け出を出さないといけない書類の中に「教典」が必要だったそうです。それが明治教典です。

そのときに、先頭を切られた初代真柱様、その元でお働きくださった先人、先輩方の独立に向けての本当に何度にもわたる提出、返還のご苦労は、とんでもないご苦労であつたと思案いたします。ですの、その背景を知ることによって、教典がいかに重要かということが理解できるものと思うのです。

そういうことも含めYouTubeでも配信しておりますので、一人でも多くの方々に話を聞いていただけたらと思います、少し冒頭で紹介をさせていただきました。

神様のノート

私事でございますが、昨年12月の誕生日をもって、73歳となりましたが、昨年末から、年明けに同級生が3人出直しました。そういう報告を聞きますと、ただただ暗たんとした気分だったのですが、この年祭活動を一層有効に勤めさせていただくためにも、自分なりにこれまで通ってきた道を検証し直して、仕切り直したいと思うわけです。今になって若いときの話もないんですけど、逆に年を取ったからこそ分かる、ということもたくさんあるのも事実です。

昨年10月、シンガーソングライターの谷村新司さんが亡くなりました。『昴』いい日旅立ち』などの歌をつくられた方です。この人は私より2つ年上で、20歳の頃、グループをつくりました。彼らは最初鳴かず飛ばずであつたものの、その内あれよあれよという間に有名になったことは、私と近い年代の方々はよくご存じのことと思います。

実は私もその昔、学生でありながら、アルバイトに明け暮れてその道を目指しておりました。フォークソングが流行って、猫も杓子もギターを抱えて、という時代で、当時、その最先端を突っ走っていたのが谷村さんのグループでした。もちろんそんなグループは山ほどあり、売れて有名になるグループ、売れなくて消えていくグループ、明暗ははつきりしていました。

当時は、天理教内でもさまざまなかグループがありました。今では本部員を務めておられる、ある先輩のグループは、関西ではかなり有名なグループでした。谷村さんは売れて音楽界の華やかな1ページを飾った人ですが、地方でうめく私たちはスポットライトを浴びることなく、結局私は学業もおろそかになり、アルバイトに明け暮れ、単位を落とし、留年ということになりました。

それから井筒敏夫・前大教会長様の元へお尋ねして、今後の進路をご相談申し上げました。すると会長様が「すぐ修養科へ入って、



青年勤めをするように」と言われますので、「はい」と言って、目指していた道を捨て、修養科を出て、道一条、青年勤めに入りました。

なぜこんな話をするのかといいますと、実はそれから青年勤めで、大教会長様の運転をさせていただいてるときに、大教会長様をお送りして一旦詰所へ帰るとき、たまたまラジオのスイッチを入れたのです。そうしたら、きれいな歌が聞こえてくる。それは私が作詞作曲した歌を、私が歌っていたのです。詰所に着くまでのわずかな時間ですけれども、流れてくる自分の曲にくぎ付けになりました。

曲が終わると「今、聞いていた曲は、瀧本眞二郎さんという方が作ってご自身で歌われていた曲です。私の秘蔵の一曲です。瀧本さん、今どこで何をしているんでしょう？」という女性のアナウンスが聞こえてきたのです。「ここや、ここや」と私は一人で車の中で叫んだのを思い出します。

思えば、勧められて奈良のヤマハのスタジオでレコーディングした覚えもあり、その一曲だと思えます。だいたいこういう出し方をして、プロがそれを聞き留めて、誰が歌っているのだろうと、そこから引き上げられて売れていく、ということを知ることがあります。でも私の歌はそれっきりでした。

それから時を経て何十年もかけて、三年前会長の立場を息子に譲って、ふと自分のこれまでの道を振り返ったとき、この体験を思い出したので。

これは妄想で、私自身の得心の仕方の一つですが、谷村さんが売れて、私が売れなかったのは、売

れなかったのではなくて、神様が売れさせなかった。それは、なぜか。当時の私には知る由もないことですが、私は将来、事情ある教会の復興という役割が神様のノートにはあったのです。

つまり、私が教会を復興したのではなく、親神様・教祖がいつも先回りして、その方向へお導きくだされたということです。

そういうふうに分には納得できるとき、これまで体験してきた数多くの不思議なことの説明もつくのです。そういう積み重ねの上に、今があると思います。

背中に祖霊様を背負う

教会をお預かりしたのは、昭和55年です。その翌年に初めての修養科生を御守護いただきました。今でいう引きこもりの男性で、農業者でした。

しかし、1週間家へ帰ってしまいました。大教会の当番中に、主任先生から電話があり、「〇〇さんが今日帰られた」との報告を受け、私も慌てて当番を終えて帰っ

て、明るる日にお母さんに教会に来ていただき、今後のことを相談させていただきました。

いろいろ話を伺いますと、その家は、農家ではありますが、その一つに1反くらいの畑があり、それは隣の独居老人の持ち物で、耕してあげている間に、その老人も出直されて、知らない内に自分のもののようにしていたと聞かせていただきましたので、「それはよくない。早く手放すなり、なんなりしたほうがいい」という話になりました。

話し合いの結果、すぐに売れるわけでもないし、お母さんが「ならば私が百万円お供えさせていただきます」という結論にいたり、そのままお帰りになりました。

それから30分くらい経って、お母さんが家に着いたところに「会長さん、息子が死んでる」と電話があり、慌ててその自宅へ行きました。息子さんは、農薬を飲んで自ら命を絶ったのです。

道路向かいの納屋の2階が当人の部屋でした。上がっていきま

と、もう警察がきておりました。その晩、仏式で通夜をして、明くる日にお葬式を済ませました。四十九日まで毎日仏壇に手を合わせに行きました。

最初にお父さんから、「何ということをしてくれるんや。うちの息子は狂うてはいたけれども、田植え時、刈り入れ時、何なりと手伝いになったんや。それを行くな」といった天理に行ったばかりにこんなことになったんや。どないしてくれるんや」とのご叱責を受けました。私は甘んじて、四十九日までその叱責を受けました。

四十九日を終えた後、改めてお父さんから「先生、話がある」と言われるので、また叱責いただくんだなと思っていると「先生、これまで嫌なことを言って本当に申し訳なかった。先生はまだ子供がおらんから、一人息子を亡くした親の気持ちなんて分からんやろ。わしはそれを持っていくところがなかったんや。だから、あんたにこう言うしかなかった。誠に申し訳ない。というのも、息子が自ら

命を絶とうとしたのは、今回に限ったことではない。何回もあったんや。ひどいときには、表のトイレに立って、気配を感じるのの後ろを見たら、なたでわしの頭をたたき割ろうとしたこともあった。そんなことを思うと誰にも迷惑をかけず、自ら命を絶った。これは天理さんのおかげかしらん」とおっしゃるんです。

そして、小脇に置いてあった茶封筒を差し出され、「先生は家内と百万円の話をしたらしいな。けれども、あの百万円は息子が生きていたらの話や。でも死んでしまったので耳を揃えて百万円というわけにはいかない。半分ある。私は天理教のお供えというのは知らんから、これは先生に差し上げる。好きなように使ってください」と、50万円を頂いて帰りました。

結果はそうですが、大変な、また不思議なことでもありました。それはこれからの私が進む道への心構えと、方向性を試されたような気がしてなりません。

その後、大教会長様から、「おま

はんの背中にやっと一人祖霊さん背負うことできたな」という言葉で頂きました。本当に嬉しかったです。なるほど、そういうことかと思いました。

親神様の大芝居

これまでのことを検証と申し上げましたが、極めつけの御守護の話もあります。

19年前に私は本部詰員の御命を頂いて、ちょうど2年目に入ったときのことです。

年1回の市民検診の結果が、11月10日に返ってきました。そこには、真つ赤な字で「緊要再検査」と書かれていました。開けると、肺に影がある、至急再検査をして確かめてもらいたい」とのことでした。12日が教会の月次祭で、14日が本部の当番です。その間、検査には行けないので、「これは肺がんだ」と思ってたドキドキしながら、13日の晩、詰所に行きました。当時、息子が大学に入った頃のことでした。私の顔色を見て、「どうしたの」と聞くので、「おそらく肺が

んだと思う」と言うと「生きた顔をしてない」と息子に言われました。私も本当に生きた心地がしていません。明くる日、神殿奉仕に向いて、着座ごとにかんろだいを覗みつけながら、たすけていただきます。こういう着座の仕方でありました。ただ願うだけではごさいません。心定めをさせていただきます。ちょうど土地をかうお金があったので、おつくしの心定めをして15日の朝、近くの医院に検診に行きました。

レントゲンを撮って、部屋に入りますと、医師が「瀧本さん、何もありません。大丈夫ですよ」と言います。「では、あれは見間違いですか？」と言うと医師は怒りました。「あれはね、私のような呼吸器内科の専門医が三人で鑑定した結果です。あれは、肺がんです」「じゃあ消えたんですか？」「消えるには理由が必要です。ないから大丈夫と言っております」ということでした。以来17年間、何も異常はございません。

ではあれは、何だったのか。い

うならば、私の息子を道一条にさせるための親神様の大芝居ではないかと思っています。あれがあったから、私の息子は3年前、立場を受けてくれたことだと思いますし、本人もそう言います。結果的にすべては御守護です。

素直は道の宝

どんなことも、こんなことも受けて立つところに、御守護の道が開けるのだと思います。

都合のいいことにせよ、不都合なことにせよ、一分の隙もないいんねんの理詰めの世界にあつて、成ってくることはさけられない。ならば、教えに従ってそれをよしとして、受けて立つところに一つの理が生まれ、たずかる道へと展開するのだと信じてやみません。

そういう例は40数年間、教会長として務めた中にいっぱいありました。一つ一つあげればきりがありませんが、今挙げたその2点がその最たるものだと私は思っております。

時に親神様は親の口や人の口を

通して、人生を大きく展開するチャンスを与えてくださいます。いかなければ、それだけ聞けばいいんです。けれども、徳のない私のような人間は、それだけ聞くといいわけにはいかないんです。

ですから、普段から何でも「はい」と素直に聞いて通る。つまり、大事なことを聞き取る練習を普段からしておかないと、聞き逃してしまいます。どうか皆様方も何でも「はい」と受け取って、大事なことを聞き取る練習を常にする。

素直は人も好けば、神も好く。素直は道の宝と教えられる通りです。そうするうちに気が付けば、一番いい方向へとおのずと向かわせていただく御守護の道があると信じてやみません。

年祭活動のこの旬、にをいげ、おたすけに合わせて自らの心の向きをもう一度見つめ直す素晴らしい機会でもあります。また、この旬、どうか普段できないことをしっかりとつとめる段取りをさせていただきますまししょう。

(要旨)

二月月次祭 祭典役割

二月月次祭 祭典役割														
祭主		扨者		扨者		座りつとめ		前 半		後 半		湯川 正 関		献饌長
大教会長		岩切正義		守田清一				賛 者		賛 者		今川政治		
指図方		賛 者		賛 者				村田光伸		茂内 浩				
今川政治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		奥田眞治		
湯川正		奥田眞治		奥田眞治										

鼓笛フェスティバル

2月12日、芦津鼓笛バンドは、コスモシアター(大阪府貝塚市)で開催された「第52回大阪教区鼓笛コンクール&フェスティバル」に参加した。

少年会員8名とスタッフ7名の合わせて15名で、審査なしの「フエスティバル部門」に出演。演奏した曲目は、過去にNHKの「朝ドラ」の主題歌にも取り上げられた「フレア」。



演奏だけでなく、幕開けに楽しい演出をするなど、多くの観客を楽しませた。

みちのだい育み塾

2月17日、婦人会芦津支部(井筒年子支部長)は大教会で、例会後「みちのだい育み塾」を実施。30名が参加し、オンラインでも15名が受講した。

婦人会は、これまで開催してきた「母親講座」から名称を変更し、新たに「みちのだい育み塾」として実施することになった。我が子や後に続く人を道の子らしく、立派なようよくに育てることが、婦人としての重要な役割であることから、育み塾は、子育て中の母親と、同年代の人を対象に、親神様の御守護や教祖の親心を学び、教えに基づいた考え方や判断ができる人に成人すること、さらには子や周囲に信仰を伝える真のようばくへと育つことを目指している。

17日は、午後1時より陽気ホールを会場に開催。瀧本真二郎・大教会役員が『天理教教典』を元に



講話を行い、明治時代、政府の干渉によって正しく教えを説くことができなかった時代から、現教典の成り立ちに触れた後、第一章について詳しく解説した。

今後も、3月、6月、7月、8月、10月の17日午後1時より、大教会陽気ホールで実施する。参加する婦人会員は、『天理教教典』と筆記具を持参してください。またオンラインでの受講も可能な

ので、下記のQ



Rコードを読み取って、育み塾のLINEグループ(※婦人会員限定)に登録してください。

女子青年初例会

2月18日、婦人会芦津女子青年は親里で初例会を行い、11名が参加した。

午前10時、井筒年子・婦人会支部長よりお話。続いて新委員長の井筒たつえさん(直轄)ら新しい常任委員に辞令が交付された。

その後、ご本部で教祖にお献じをさせていただき、お願いごとめ



に参拝。詰所に戻ってからは、トイレの清掃と、この日詰所で実施していたことも食堂の食器洗いのひのきしんをした。

昼食は、全員で会食。お鍋を囲み、和気あいあいとした時間を過ごし、親睦を深めると同時に、これからの活動について話し合った。井筒委員長は、「参加したみんなが『楽しかった』と考えるような女子青年活動を進めたいと思います」と今後の活動について抱負を語った。

青年会初例会

青年会芦津分会（井筒敏成委員長）は、2月24日17時30分より芦津詰所で芦津分会初例会を開催、青年会員17名が集まった。

最初に井筒委員長が挨拶。4月に開催する芦津分会総会の参加のお願いと、おやさとおしん青年会ひのきしん隊70周年について、「今年にはFLAT入隊という、普段入隊しにくい若い世代のために、『教員後継者コース』『学生層コース』も設けられている。ひのきし



ん隊未入隊の方は、今年はぜひとも入隊していただきたい」と力説した。

その後、参加者全員で対話。最後は懇親会で会員同士の親睦を深めた。

学生生徒修養会

3月4日から8日にかけて、本部主催の「学生生徒修養会・大学の部」が、続いて10日から12日まで「同・高校卒業生コース」が親里で開催された。

教理に関する講義やグループタ



学生生徒修養会・大学の部参加者

イム、ひのきしんなどのプログラムを通して、参加者たちは共に笑い、時には真剣に悩みを相談し合い、信仰を深め合う仲間と充実した時間を過ごした。

芦津からは大学の部に6名、高校卒業生コースに7名が参加。受講した学生からは、「友達ができるかとても不安だったが、大勢のお道の友達ができた」「今まで天理教について話すことがなかったが、みんなと話せて、お互い共感できた」などの声が聞かれた。

参加者は、以下の通り。

大学の部

毛利俊太（東大屋）、吉田大樹（今津原）、岩切大樹・岩切直大（四ツ山）、瀧本昂郎（紀周）、奥田陽人（周宝）

高校卒業生コース

石川正美・小田ひまり・加世田ゆづき・河合太洋・中嶋美歩優（直轄）、寺本稜（紀内）、山下朝陽（芦山都）



学生生徒修養会・高校卒業生コース参加者

教務部報

教人講習会第138回修了

田中 宣次 (芦 玉)

信坂 幸 (大真永)

立教187年2月10日

おさづけの理拝戴《1月》

河合 太洋 (直 轄)

岸下 雄太 (直 轄)

水流 夏楓 (直 轄)

中田 優成 (直 轄)

松本 秀太 (直 轄)

刈 思遠 (直 轄)

《拝戴日順 6名》

初席《1月》

《6名》紀周

《4名》直轄

《1名》南向、山城谷、芦島

鶴、二名、今津原、

尼崎、和鎮

《順序運びより 17名》

計 報

鳥栖分教会四代会長(門司部属)

加藤暁美氏(かとうあきよし)



令和6年3月1日出直され
た。享年70歳。

告別式は3月4日、望月慶

太・門司分教会会長斎主のもと、

佐賀県鳥栖市の葬祭場で執り

行われた。

氏は昭和28年12月30日、父

・加藤義暁鳥栖分教会三代会

長、母・美津子の子として生

まれ、同47年おさづけの理拝

戴、天理高校卒業、同49年教

人登録、同51年天理大学宗教

学科卒業、国内布教伝道部勤

務、同54年布教の家・愛知寮

入寮、同55年青年会鳥栖支部

委員長、同56年佐賀教区青年

会副委員長、同58年修養科第

504期修了、平成元年鳥栖分教

会四代会長に就任。教区では

主事、集会員、学生担当委員

会委員長などを歴任された。

ようばく、信者のおたすけ

と丹精に奔走されると共に、

つくし運びの上には並々なら

ぬ献身と喜びの心で勤められ、

上級、教区の御用の上に常に

懸命に励まれた。

能登半島地震に対する大教会の取り組みについて

今年1月1日に発生した「能登半島地震」では、まだ復興の見通しが立たない被災地もありますが、たとえ善意からであっても現地へ駆けつけることは、かえって救援活動の妨げになる場合もあります。こうしたことを考慮して、芦津大教会は被災地への独自派遣は行わず、各教区の災害救援ひのきしん隊への参加と、広く募金を促すことによって、救援活動を支援したいと思います。

そして直接の救援活動はできなくとも、被災された方々が一日も早く元の平穏な生活に戻っていただけるよう、親神様・教祖に真剣をお願いさせていただきたいと思います。

なお、本教としての募金活動は「天理教災害救援ひのきしん隊基金」に一本化されており、災救隊の活動支援、被災教区への復興支援に活用されます。詳細は天理教ホームページをご覧ください。

<https://www.tenrikyo.or.jp/yoboku/information/2024/01/03/54232/>

月例統計(自令和6年1月1日)至令和6年1月31日)

項 目	初	の	修	教
名 称	席	お	養	人
() 内教会数		理	科	
		さ	修	
		づ	了	
		戴		
大 教 会	(1)	4	6	
鞆	(13)			
東 津	(23)	1		
吉 野 川	(29)	1		
島 原	(16)	1		
日 方	(15)	2		
稗 島	(7)			
本 津	(2)			
日 高	(2)			
始 良	(5)			
津 和	(12)			
門 司	(6)			
當 別	(6)			
大 島	(26)			
沖 縄	(3)			
尼 崎	(2)	1		
四 ツ 山	(5)			
大 冠	(2)			
島 下	(1)			
天 保	(3)			
青 山	(1)			
芦 浪	(1)			
甲 邊	(1)			
芦 華	(1)			
天 津	(1)			
入 江	(1)			
豊 野	(1)			
紀 周	(3)	6		
勝 明	(1)			
神 の 島	(1)			
兵庫真洲	(1)			
芦 ノ 郷	(2)			
本 明 勇	(2)			
明 道	(1)			
芦 東	(1)			
和 鎮	(3)	1		
神 滝 本	(1)			
芦 明 徳	(1)			
真明彰化	(2)			
本 氣	(2)			
芦 明 照	(1)			
真 伯	(1)			
合 計 (209)	17	6	0	0